

インドネシア語と日本語における他動詞と 自動詞の形成

Lien Darlina
Politeknik Negeri Bali
darlina@pnb.ac.id

Wahyuning Dyah
Politeknik Negeri Bali
dyah@pnb.ac.id

Abstrak

Bahasa Indonesia dan bahasa Jepang mempunyai kesamaan dalam pembentukan verba yakni salah satu caranya dengan penempelan afiks. Ini dikarenakan kedua bahasa tersebut tergolong bahasa aglutinatif secara morfologis. Afiks pembentuk verba transitif bahasa Indonesia memperlihatkan bahwa penempelan afiks *meng-*, *ter-*, *ber-* pada bentuk dasar membentuk *verba intransitif*, sementara penempelan afiks *-kan* dan *-i* pada bentuk dasar membentuk *verba transitif*. Dengan demikian dapat disimpulkan bahwa sistem morfologi bahasa Indonesia, penempelan afiks *meng-*, *ter-*, *ber-* di sebelah kiri pada bentuk dasar, terbentuk *verba intransitif* dan penempelan afiks *-kan* dan *-i* di sebelah kanan pada bentuk dasar terbentuk *verba transitif*. Sedangkan dalam Bahasa Jepang afiks pembentuk *verba derivatif intransitif* adalah sufiks *-まる*-*maru*, *-がる*-*garu* dan *-する*-*suru*, afiks pembentuk *verba derivatif transitif* adalah sufiks *-める*-*meru*, *-む*-*mu* dan *-する*-*suru*

Kata Kunci : Verba Transitif, Verba Intransitif, Aglutinatif

要旨

インドネシア語と日本語は動詞の形成に共通点があり、そのひとつが接辞の付加である。これは両言語が形態膠着語に分類されるからである。インドネシア語の他動詞を形成する接辞を見ると、基本形に *meng-*、*ter-*、*ber-*がつくと自動詞になり、基本形に *-kan*、*-i*がつくと他動詞になる。したがって、インドネシア語の形態素系では、基本形の左側の接辞 *meng-*、*ter-*、*ber-*が自動詞を形成し、基本形の右側の接辞 *-kan*、*-i* が他動詞を形成すると結論づけることができる。日本語では派生自動詞の派生動詞を形成する接辞は *-まる*、*-がる*、*-する*であるが、派生他動詞の派生動詞を形成する接辞は *-める*、*-む*、*-する*である。

キーワード：他動詞、自動詞、接着型

1. はじめに

自動詞と他動詞の形成は、意味や文の構造がどのように構築されるかに直接関係するため、言語研究の重要な側面である。インドネシア語では、自動詞と他動詞の違いは、*ter-*、*ber-*、*meng-*、*-kan -i* などの接辞の使用によって特徴づけられることが多い。同様に、日本語においても、動詞を形成する接辞を伴う派生自動詞と派生他動詞の形成について考察する。

これまでの研究では、この2つの言語における自動詞と他動詞の形成と用法について別々に研究されてきた。例えば、インドネシア語の言語学的研究では、他動詞に影響を与える接辞の形態論的・意味論的分析に主眼が置かれることが多い。一方、日本語の研究では、複雑な動詞のパターンや、動詞の他動性を決定するための文脈の利用を探求する傾向がある。しかし、インドネシア語は形態素膠着語であるにもかかわらず、2つの言語がどのように異なるかについての比較研究には大きな研究ギャップがある。ほとんどの先行研究では、この2つの言語における自動詞と他動詞の形成における形態論的变化と意味論的变化の関係を、比較の文脈で深く調査していない。さらに、これらの動詞形成パターンの相違点と類似点を、言語学習や言語間翻訳への影響に結びつけようとする研究もあまりない。

本研究は、インドネシア語と日本語における自動詞と他動詞の形成過程の比較分析を行うことで、このギャップを埋めることを目的とする。この研究の主な焦点は、この2つの言語が形態論的变化をどのように扱うか、また、これらの変化の意味論を理解することである。したがって、本研究の成果が比較言語学の分野に新たな貢献をし、言語学習者や翻訳者にさらなる洞察を与えることが期待される。

2. 方法論

他動詞と自動詞の形成の分析に用いられる主な理論は言語類型論であり、「言語 X とはどのようなものなのか」という問いに答えることを目的としている。言語類型論的研究の基本原則は、記述的自然言語学的、横断的言語学的であり、(1) すべての言語はその構造に基づいて比較することができ、(2) 言語間には違いがあることを説明する。(Mallinson and Blake: 1991; Dixon: 2010; Comrie (1988) and Artawa and Jufrizal (2018: 35)。

本研究で一次データとして使用するデータソースは、小説『“*Sang Pemimpi*”』の文章データである。小説を選んだ理由は、興味深いことはもちろん、フォーマルな言語を使用しているため、言語が理解しやすいからである。一次データに加えて、二次データ、つまり教科書や雑誌から引用した派生動詞や日本語の文節のデータも提供する。日本語のデータは、基準を満たしたキー・インフォーマントからのデータを使用している。

3. インドネシア語と日本語の自動詞と他動詞の形成

自動詞か他動詞かという動詞の種類は、その動詞を形成する接辞によって決まる。本研究では、自動詞と他動詞を形成する接辞について考察する。その結果、自動詞を形成する接辞は *ber-*、*ter-*、*meng-* であることがわかった。一方、他動詞を形成する接辞は *-kan*、*-i* である。自動詞と他動詞の形成は形態論的過程の研究の一部である。形態論的类型論では、インドネシア語は膠着語であり、形態論的過程は接辞によって行われる。自動詞と他動詞を形成する接辞は以下の通りである。

A. インドネシア語の自動詞を形成する接辞

自動詞とは、核となる引数 (S) をひとつだけ必要とする動詞で、能動態と受動態の対格を派生させない。例: *datang*, *pergi* など、Artawa and Jufrizal (2018:107), Dixon: 2010.

以下はその考察である:

1. 接辞 *ber-* は基本形に結合する。

例:

- (1) 接辞 *ber-* が基本形 *jas* につくと *berjas* になる;
- (2) 接辞 *ber-* が基本形 *warna* につくと *berwarna* になる;
- (3) 接辞 *ber-* が基本形 *bekal* につくと *berbekal* になる;
- (4) 接辞 *ber-* が基本形 *jiwa* につくと *berjiwal* になる;
- (5) 接辞 *ber-* が基本形 *guru* につくと *berguru* になる;
- (6) 接辞 *ber-* が基本形 *saing* につくと *bersaing* になる;
- (7) 接辞 *ber-* が基本形 *temu* につくと *bertemu* になる;

上記の *ber-* 接辞を持つ 7 つの自動詞のうち、*ber-* 接辞を持つ自動詞の文中での用例を以下に示します。

ber- 接辞を持つ自動詞述語を使った以下の文を見てみよう。

(3-1) *Ia juga berjas seperti Arai* (Hirata, 2008: 218)

(3-2) *Kita harus bersaing dengan daerah lain* (Hirata, 2008p.18)

(3-3) *Di UI Depok, aku sempat bertemu dengan seorang wanita cantik.* (Hirata, 2008: 232)

(3-1) の文では、自動詞 *berjas* は一つの核となる引数(S)、すなわち *Ia* を束縛する。また、自動詞 *berjas* は受身形を減らさない。(3-2) の文では、自動詞 *bersaing* は *kita* という 1 つの核心引数(S) を束縛する。そして自動詞 *bersaing* は受身形を減らさない。(3-3) の文では自動詞 *bertemu* は *aku* である 1 つの核心引数(S) を束縛する。そして自動詞 *bertemu* は受身形を減らさない。

2. 接辞 *ter-* は基本形に結合する。

例:

- (1) 接辞 *ter-* が基本形 *obsesi* につくと *terobsesi* になる;
- (2) 接辞 *ter-* が基本形 *pesona* につくと *terpesona* になる;
- (3) 接辞 *ter-* が基本形 *batas* につくと *terbatas* になる;
- (4) 接辞 *ter-* が基本形 *baik* につくと *terbaik* になる;
- (5) 接辞 *ter-* が基本形 *haru* につくと *terharu* になる;
- (6) 接辞 *ter-* が基本形 *tegun* につくと *tertegun* になる;
- (7) 接辞 *ter-* が基本形 *puruk* につくと *terpuruk* になる;

上記の *ter-* 接辞を持つ 7 つの自動詞の中から、文中での *ter-* 自動詞の使用例を挙げます。

ter- 接辞を持つ自動詞の述語を持つ以下の文を見てください:

(3-4) *Ia terobsesi untuk hidup mandiri* (Hirata, 2008: 231)

(3-5) *Jimbron Aku, Arai dan sungguh terpesona pada Pak Balia.* (Hirata, 2008: 211)

(3-6) *Aku terpuruk dalam sekali.* (Hirata, 2008: 145)

(3-4) の文では、自動詞 *terobsesi* は一つの核となる引数(S)、すなわち *Ia* を縛っている。また、自動詞 *terobsesi* は受動態を減らさない。文(3-5)では自動詞 *terpesona* は核となる引数(S)である *Aku*、*Arai*、*Jimbron* を 1 つずつ束ねる。そして自動詞 *terpesona*

は受動態を減らさない。文(3-6)では、自動詞 *terpuruk* は核となる引数(S)、すなわち *Aku* を1つ束ねる。そして自動詞 *terobsesi* は受動態を減少させない。

3. 接辞 *meng-*は基本形に結合する。

例:

- (1) 接辞 *meng-*が基本形 *pesona* につくと *mempesona* になる;
- (2) 接辞 *meng-*が基本形 *bahana* につくと *membahana* になる;
- (3) 接辞 *meng-*が基本形 *lengkung* につくと *melengkung* になる;
- (4) 接辞 *meng-*が基本形 *merah* につくと *memerah* になる;
- (5) 接辞 *meng-*が基本形 *ciut* につくと *menciut* になる;
- (6) 接辞 *meng-*が基本形 *benci* につくと *membenci* になる;
- (7) 接辞 *meng-*が基本形 *dekat* につくと *mendekat* になる;
- (8) 接辞 *meng-*が基本形 *renggut* につくと *merenggut* になる;
- (9) 接辞 *meng-*が基本形 *tikung* につくと *menikung* になる;
- (10) 接辞 *meng-*が基本形 *ledak* につくと *meledak* になる;

上記の *meng-*接辞を持つ10個の自動詞のうち、文中での自動詞 *meng-*の使用例を示します。

*meng-*接辞を持つ自動詞述語を持つ以下の文を見てください:

(3-7) *Pipi perempuan cantik itu memerah* (Hirata, 2008: 233)

(3-8) *Ia mendekat* (Hirata, 2008: 232)

(3-9) *Air matakku mengalir semakin deras.* (Hirata, 2008: 36)

文(3-7)では、自動詞 *memerah* は一つの核となる引数(S)、すなわち *pipi perempuan cantik itu* を縛っている。また、自動詞 *memerah* は受身形を減らさない。文(3-8)では自動詞 *mendekat* が一つの核心引数(S)、すなわち *Ia* を束縛する。そして自動詞 *mendekat* は受身形を減らさない。文(3-9)では自動詞 *mengalir* は *air matakku* という1つの核心引数(S)を束縛する。そして自動詞 *mengalir* は受身形を減らさない。

B. 日本語の派生自動詞を形成する接辞

本稿で取り上げる日本語の自動詞は、自動詞ではなく派生自動詞である。

日本語の派生自動詞はどのように形成される。

1. 接辞-まるは基本形と結合する。

例:

- (1) 原形の「高い」に接辞「-まる」がつくと高まる。
- (2) 原形の「広い」に接辞の「-まる」がつくと広まる

上記の2つの派生自動詞の接尾辞-まる、文中での派生自動詞-まるの用例を挙げてみよう。

(3-10) このイベントへの期待が高まっている。

Kono ibento e no kitai ga takamatte iru
(Harapan terhadap acara ini semakin meningkat)

(3-11) インターネットのおかげで情報がすぐに広まる。

Intānetto no okage de jōhō ga sugu ni hiromaru
(Berkat internet, informasi dengan cepat menyebar)

(3-10)と(3-11)の文では、派生自動詞である高まっていると広まるが、一つの核となる引数(S)、すなわちこのイベントへの期待と情報を結合する。

2. 接辞「-がる」は基本形と結合する。

例:

(1) 原形の「悲しい」に接辞「-がる」がつくと悲しがる

(2) 原形の「難しい」に接辞「-がる」がつくと難しがる

上記 2 つの派生自動詞のうち、「-がる」接辞を持つ派生自動詞の文中での用例を以下に挙げる。

(3-12) 彼は別れの時にとても悲しがっていた。

Kare wa wakare no toki ni totemo kanashigatte ita.

Dia sangat bersedih saat perpisahan.

(3-13) 彼はいつも数学の問題を難しがる。

Kare wa itsumo sūgaku no mondai o muzukashigarū.

Dia selalu merasa bahwa soal matematika itu sulit.

文(3-12)と(3-13)では、派生自動詞である悲しがっていたと難しがるが、一つの核となる、すなわち彼と彼を結合する。

3. 接辞「-する」は基本形と結合する。

例:

(1) 原形の「到着」に接辞「する」がつくと到着する

(2) 原形の「昼寝」に接辞「する」がつくと昼寝する

上記 2 つの派生自動詞のうち、「-する」接辞を持つ派生自動詞の文中での用例を以下に挙げる。

(3-14) 飛行機は午後 3 時に東京に到着します。

Hikōki wa gogo san-ji ni Tōkyō ni tōchaku shimasu.

Pesawat akan tiba di Tokyo pada pukul 3 sore.

(3-15) 私はお昼ご飯の後に少し昼寝します。

Watashi wa o-hirugohan no ato ni sukoshi hirune shimasu.

Saya akan tidur siang sebentar setelah makan siang.

文(3-14)と(3-15)では、派生自動詞: 到着しますと昼寝しますは、単一の核となる引数、すなわち、飛行機と私を結合する。

C. インドネシア語の他動詞を形成する接辞

他動詞は 2 つの核となる引数 (A と O) を必要とする動詞である。例: *pukul*, *tusuk* など、Artawa and Jufrizal (2018:107), Dixon: 2010.

以下はその考察である。

1. 接辞 *-kan* は基本形に結合する

例:

(1) 接辞 *-kan* が基本形 *khobar* につくと *khabarkan* になる;

(2) 接辞 *-kan* が基本形 *saksi* につくと *saksikan* になる;

(3) 接辞 *-kan* が基本形 *kancing* につくと *kancingkan* になる;

(4) 接辞 *-kan* が基本形 *bersih* につくと *bersihkan* になる;

(5) 接辞 *-kan* が基本形 *kuat* につくと *kuatkan* になる;

(6) 接辞 *-kan* が基本形 *sengsara* につくと *sengsarakan* になる;

(7) 接辞 *-kan* が基本形 *rindu* につくと *rindukan* になる;

(8) 接辞 *-kan* が基本形 *lontar* につくと *lontarkan* になる;

(9) 接辞 *-kan* が基本形 *temu* につくと *temukan* になる;

(10) 接辞 *-kan* が基本形 *ucap* につくと *ucapkan* になる;

上の *-kan* 接尾辞を持つ 10 の他動詞から、文中での他動詞 *-kan* の使用例を挙げます。

接尾辞-*kan*を持つ他動詞述語を持つ次の文を見てください:

(3-16) *Arai membersihkan* kotoran kelelewar di langit-langit seluruh sekolah Hirata, 2008:119)

(3-17) *Aku merindukan* Arai setiap hari (Hirata, 2008: 231)

(3-18) *Arai mengancingkan* jasanya (Hirata, 2008: 215)

文(3-16)では、他動詞 *membersihkan* が2つの中核引数 (SとO)、すなわち *Arai* と *kotoran kelelewar* を結合している。そして他動詞 *membersihkan* は受身形を *dibersihkan* になる。

文(3-17)では、他動詞 *merindukan* が2つの中核引数 (SとO)、すなわち *Aku* と *Arai* を結合している。そして他動詞 *merindukan* は受身形を *dirindukan* になる。

文(3-18)では、他動詞 *mengancingkan* が2つの中核引数 (SとO)、すなわち *Arai* と *jasanya* を結合している。そして他動詞 *mengancingkan* は受身形を *dikancingkan* になる。

2. 接辞 -i は基本形に結合する

例:

(1) 接辞-i が基本形 *dahulu* につくと *dahului* になる

(2) 接辞-i が基本形 *akhir* につくと *akhiri* になる

(3) 接辞-i が基本形 *alam* につくと *alami* になる

(4) 接辞-i が基本形 *kagum* につくと *kagumi* になる

(5) 接辞-i が基本形 *panas* につくと *panasi* になる

(6) 接辞-i が基本形 *lintas* につくと *lintasi* になる

(7) 接辞-i が基本形 *lekatm* につくと *lekati* になる

上記の-i接辞を持つ7つの他動詞のうち、-i接辞を持つ他動詞の文中での使用例を挙げます。

以下の-i接辞を持つ他動詞の文を見てください:

(4-19) *Aku mengamati* Arai (Hirata, 2008: 36).

(4-20) *Aku mengagumi* daya survival bangsa Tionghoa. (Hirata, 2008: 30).

(4-21) *Arai memanasi* mereka. (Hirata, 2008:117)

文(3-19)では、他動詞 *mengamati* が2つの中核引数 (SとO)、すなわち *Aku* と *Arai* を結合している。そして他動詞 *mengamati* は受身形を *diamati* になる。

文(3-20)では、他動詞 *mengagumi* が2つの核心的引数 (SとO)、すなわち *Aku* と *daya survival bangsa Tionghoa* を結びつけている。そして他動詞 *mengagumi* は受動態を *dikagumi* になる。文(3-21)では他動詞 *memanasi* が2つの核心的引数 (SとO)、すなわち *Arai* と *mereka* を結びつけている。そして他動詞 *memanasi* は受動態を *dipanasi* になる。

3. 接辞 meng- は基本形に結合する(数量限定)

接頭辞 *meng-* を持つ他動詞

例:

(1) 接辞 *meng-* が基本形 *pihak* につくと *memihak* になる

(2) 接辞 *meng-* が基本形 *benci* につくと *membenci* になる

(3) 接辞 *meng-* が基本形 *sambar* につくと *menyambar* になる

上記の *meng-*接辞を持つ3つの他動詞のうち、文中での他動詞 *meng-*の使用例を挙げます。

*meng-*接辞を持つ他動詞述語を使った次の文を見てください:

(3-22) Beliau jelas *memihak* Arai (Hirata, 2008;56),

(3-23) Mereka *membenci* Pak Mustar (Hirata, 2008:),

(3-24) Jimbron *menyambar* sepedanya yang telah dipasangnya surai (Hirata, 2008).

文(3-22)では、他動詞 *memihak* が2つの中核引数 (S と O)、すなわち *Beliau* と *Arai* を結合している。そして他動詞 *memihak* は受身形を *dipihak* になる。

文(3-23)では、他動詞 *membenci* が2つの中核引数 (S と O)、すなわち *mereka* と *Pak Muhtar* を結合している。そして他動詞 *membenci* は受身形を *dibenci* になる

文(3-24)では、他動詞 *menyambar* が2つの中核引数 (S と O)、すなわち *Jimbron* と *sepedanya* を結合している。そして他動詞 *menyambar* は受身形を *disambar* になる。

D. 日本語の派生他動詞を形成する接辞

本稿で取り上げる日本語の他動詞は、他動詞ではなく派生他動詞である。

日本語の派生他動詞はどのように形成される。

1. 接辞「-める」は基本形と結合する

例:

(1) 原形の「細い」に接辞「-める」がつくと細める

(2) 原形の「早い」に接辞「-める」がつくと早める

上記2つの派生他動詞のうち、「-める」接辞を持つ派生他動詞の文中での用例を以下に挙げる。

(3-25) 彼女は眩しい光を見て目を細めた。

Kanojo wa mabushii hikari o mite me o hosometa.

Dia menyipitkan matanya saat melihat cahaya yang terang.

(3-26) 私達は会議の開始時間を1時間早めます。

Watashitachi wa kaigi no kaishi jikan o ichi-jikan hayamemasu.)

Kami akan memajukan waktu mulai rapat satu jam lebih awal.

(3-25)と(3-26)の文では、派生他動詞である細めたと細めたが、2つの中核引数 (S と O)、すなわち彼女、眩しい光 と 私達、会議の開始時間を結合する。

2. 接辞「-む」は基本形と結合する

例:

(1) 原形の「楽しい」に接辞「-む」がつくと楽しむ

(2) 原形の「悲しい」に接辞「-む」がつくと悲しむ

上記2つの派生他動詞のうち、「-む」接辞を持つ派生他動詞の文中での用例を以下に挙げる。

(3-27) 私は友達と一緒に旅行を楽しむ。

Watashi wa tomodachi to issho ni ryokō o tanoshimu.)

Saya menikmati perjalanan bersama teman-teman.

(3-28) 彼はペットが亡くなったことをとても悲しんでいる。

Kare wa petto ga nakunatta koto o totemo kanashinde iru.

Dia sangat bersedih karena hewan peliharaannya meninggal.

(3-27)と(3-28)の文では、派生他動詞である楽しむと悲しんでいるが、2つの中核引数 (S と O)、すなわち私、旅行と 彼、ペットが亡くなったことを結合する。

3. 接辞「-する」は基本形と結合する

例:

(1) 原形の「勉強」に接辞「-する」がつくと勉強する

(2) 原形の「予約」に接辞「-する」がつくと予約する

上記 2 つの派生他動詞のうち、「-する」接辞を持つ派生他動詞の文中での用例を以下に挙げる。

(3-29) 私はレストランを今夜のディナーのために予約します。

Watashi wa Restoran o kon'ya no dinā no tame ni yoyaku shimasu.

Saya akan memesan meja di restoran untuk makan malam malam ini.

(3-30) 私はこの新しいソフトウェアの使い方を説明します。

Watashi wa kono atarashī sofutō~ea no tsukaikata o setsumei shimasu.)

Saya akan menjelaskan cara menggunakan perangkat lunak baru ini.

(3-29)と(3-30)の文では、派生他動詞である *予約します*と*説明します*が、2つの中核引数（SとO）、すなわち私、レストランと私、この新しいソフトウェアの使い方を結合する。

4. 考察

以上のインドネシア語と日本語の自動詞と他動詞の形成の考察から、その形成には以下のような共通点と相違点がある：

インドネシア語と日本語の自動詞の形成の類似点

1) どちらも基本形に接辞を付加して形成される。

インドネシア語の自動詞は *ber-*、*ter-*、*meng-*という接辞を付加する、

日本語の派生自動詞は接辞を付加する： -まる、がる。

インドネシア語の他動詞では、接辞-kan、-i、meng

日本語では接辞をつける： -める、-む、-する。

2) どちらも自動詞と他動詞を形成できる接辞が1つずつある。

自動詞と他動詞を形成するインドネシア語の接辞は接辞 *meng-* である。

派生自動詞と派生他動詞の両方を形成する日本語の接辞は-するである

インドネシア語と日本語の自動詞の形成の違い

日本語では派生自動詞や派生他動詞を形成する接辞は接尾辞のみであるが、インドネシア語では接頭辞や接尾辞で形成することができる。

5. 結論

インドネシア語と日本語における自動詞と他動詞の形成に関する考察から、インドネシア語の形態論は、基本形の左側に接辞が付くと自動詞が形成されると言える。一方、接辞が基本形の右側に付くと他動詞を形成する。日本語にはこのような特徴はない。

6. 引用文献

Ahya, Akhmad Sauqi. 2013. *Makna dan Fungsi Afiks Derivasi dalam Bahasa Arab dan Bahasa Indonesia*. Malang : Madani Press.

Artawa, I Ketut dan Jufrizal. 2018. *Tipologi Linguistik : Konsep Dasar dan Aplikasinya*. Denpasar: Pustaka Larasan.

Dixon, R.M.W. 2010. *Basic Linguistic Theory Vol.2*. Oxford: Oxford University Press.

Koizumi, Tamotsu. 1993. *Nihongogaku Nyuumon*. Tokyo: Taishukan Shoten

Nani Sunarni dan Jonjon Johana. 2010. *Morfologi Bahasa Jepang*. Bandung : Sastra Unpad Press.

Sudaryanto. 2015. *Metode dan Aneka Teknik Analisis Bahasa*. Yogyakarta: Duta Wacana Press.